

【 2022 年度子育てを語る委員会 11 月例会のご報告 】

11 月 8 日、同志社中学校・高等学校副校長の竹山幸男先生をお招きして、オンライン講演会を開催いたしました。当日は、ご参加頂きました保護者の皆様とともに学び、また講演後の座談会では学年の垣根を超え交流ができ充実した時間になりましたことを感謝もってご報告させていただきます。

今回の講演会テーマは『新島襄先生と同志社教育』でした。創始者新島襄先生が培った教育精神とともに、それがどのように同志社教育の基盤として生かされているかを、これらに広く造詣を深めていらっしゃる竹山先生からご教示いただきました。

新島襄は、若くしてアメリカという未知の世界に希望を抱き、約束された将来と家族を日本に残し当時鎖国状態にあった日本から飛び出して単身渡米を図りました。そして、アメリカの地で、周囲の人々の無償の愛とサポートを受け、キリスト教への信仰を深めながらさまざまな研鑽を積み、グローバルな視野を身につけていきました。その後、新島は岩倉使節団の通訳として欧米の教育を視察し、キリスト教主義学校創設の志を高めていきます。彼の自国同胞への想いに心打たれ、これを支持したクリスチャンたちの多額の献金を受け、新島帰国後、1875 年に同志社英学校は創立しました。

新島は、日本で初めてアメリカの大学を卒業した大学創始者です。日本国内の大学とは異なり、アメリカやヨーロッパの根底に流れる文化や宗教観・哲学観の影響を受けて同志社は設立されました。その抱いていた教育精神は「人格形成の重視」「一人ひとりを大切にす
る教育(個の重視)」「神様から与えられた賜物(タラント)を世のため隣人のために用いること(自己犠牲と奉仕)」といった特徴をもっています。新島自身がアメリカの地で体験した教育や生活、人々との交流の中で受けたものです。

また同志社の建学の目的のひとつに「良心教育」があります。知識や技能だけでなく、それを運用する人格、人となり、キリスト教主義教育に基づく「良心」(スピリット)の養成に力を注ぐことこそ「全人教育」といえるでしょう。戦後の実利的な教育が現在行き詰まりを見せ、同志社創立時からめざされた「人を育てる」教育がますます重要になってきていると思われる現代。この精神はビジネスの世界でも尊ばれ、リベラルアーツの重要性を説かれている例としては故スティーブ・ジョブズ氏のグラフィックデザインも挙げられました。

そして、新島先生は遺言で「常識から外れているように見える学生も、圧迫せずに本来もっている個性を伸ばすように」語られ、「生徒を丁重に扱うべきこと」として「すべての学生を見捨てない教育」の重要性を示されました。弱者や痛みをとまなう生徒たちにも目を向けようという精神が、一人ひとりを大切に作る教育の真髄といえるでしょう。「賜物（タラント）を用いる自己犠牲や奉仕」とは、私たち自身が受けている神様からまた、隣人からの愛をお返ししていくといった社会貢献の心を育むことや、謙虚さを学んでいく教育精神の上に成り立っているといえるのではないのでしょうか。これらの新島先生の教育精神を実らせていく器が同志社であり、同志社教育なくして新島先生がめざされた人物は育たなかったと思われまふ。そしてこの精神とは、聖書にある神の愛に根差したキリストの教えであると同時に、新島が最も大切にされた基盤でもあります。

講演会では以上のような新島先生の生涯、抱かれていた教育精神、同志社教育についてのお話をいただきました。最後はお祈りのお言葉を頂き、讃美歌「いくつしみ深き」を歌い、講演会は閉会致しました。

また講演後は、お互いの感想等を保護者間で共有し合う時間を持つことができました。少人数に分かれての座談会はとてもリラックスした雰囲気にもまれ、実りのある時間となりました。当日までに多くのご準備を賜り、学びを通して気づきの機会を下さった竹山先生、ご臨席頂きました原田先生、ご協力頂きました職員の皆様、誠にありがとうございました。また、当日ご参加下さった保護者の皆様にも共に過ごした貴重なお時間に心より感謝を申し上げます。

今後も子育てを語る委員会では、子どもたちを同志社で学ばせて頂けて良かったと思えるような、学びの場そして話し合いの場を設けて参ります。保護者の皆様とそのような機会にご一緒できることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

終わりに新島襄の大切にされた聖書の御言葉の一つをご紹介します。

『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』

『隣人を自分のように愛しなさい。』

(新約聖書 マタイによる福音書 22章 37,39節) (同志社中学校 2022年度学校目標)

皆様お一人お一人とともに平安と幸いがございますよう、委員一同心よりお祈り申し上げます。

同志社中学校・高等学校 子育てを語る委員会